

四季折々、お気軽に明王院にお参りください

年中行事

元日	初詣
一月二十八日	初護摩
三月	お彼岸
四月八日	花まつり
五月二十八日	護摩
七月	お盆
七月十八日	施餓鬼会
九月	お彼岸
九月二十八日	護摩
十二月三十一日	除夜の鐘



交通のご案内

電車 東武伊勢崎線梅島駅下車、徒歩20分  
 バス 東京メトロ千代田線・京成線町屋駅より、都バス41「足立梅田町」行き乗車、「赤不動」バス停下車徒歩2分  
 タクシー JR常磐線・東京メトロ日比谷線/千代田線・東武伊勢崎線つくばエクスプレス北千住駅より約10分

真言宗豊山派  
**明王院 (赤不動)**  
 〒123-0851  
 東京都足立区梅田4-5-30  
 電話：03-3852-7378  
 FAX：03-3840-9235



『江戸名所図会』梅田天神祠 不動堂 別当明王院  
 天保五〜七 (1834〜1836) 年に作られた『江戸名所図会』には、江戸時代の当院の様子が描かれています。

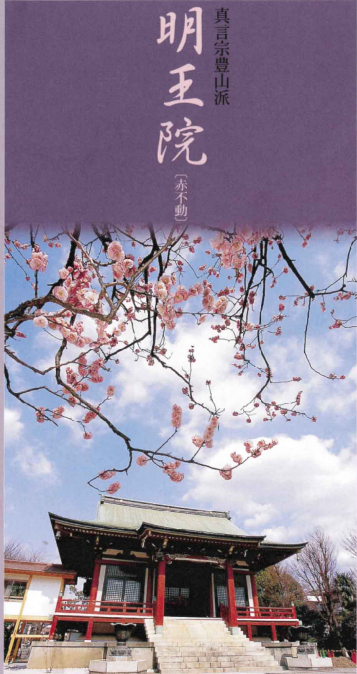


御願所記録  
 歴代將軍の御参りの際の御願所であった当院には、当時の献立などの記録が伝わっています。



旧不動堂 (本堂)  
 寛保二 (1742) 年に建立された不動堂 (本堂)。「江戸名所図会」にも描かれた不動堂は、老朽化のため昭和四十八年に再建されました。

当院は、正式には万徳山梅林寺明王院という名称で、感得不動明王をご本尊とする真言宗豊山派に属するお寺です。治承二 (一一七八) 年に創建され、八百年以上の歴史があります。美しい朱塗りの堂宇から、「赤不動」という呼び名で親しまれています。



真言宗豊山派  
**明王院**  
 (赤不動)

当院の由緒は、平安時代の末期に遡ります。治承二 (一一七八) 年、当時付近に閑居していた志田先生源義広 (源頼朝の叔父) により、源家の祈願所として創建されました。当初、堂宇が建てられたのは、現在地より南方の榎戸と呼ばれる地域だったようです。その後、義広の孫・義純が当所に移り住み、さらにその孫の久広の時、当院のかたわらに天満宮を勧請し、万徳山梅林寺と称するようになりました。久広は、その姓を「梅田」と改めました。当院周辺地域の地名が「梅田」であるのも、これに由来します。永正年間 (一五〇四〜一五二二)、梅田氏の子孫・久義が関東の騒乱を避け、丹後へ移住しました。そのため当院は堂宇が大破するなど、かなり荒れ果てたようです。しかし、慶長年間 (一五六六〜一六一五) には、梅田氏の旧跡 (当院現在地) に堂宇が再建されました。江戸期に入ってから、徳川家光 (三代、吉宗 (八代)、家慶 (十二代) などの歴代將軍の鷹狩りの際の御願所となりました。また、源家の古い祈願所のゆかりにちなみ、寺領十三石が与えられました。寛保二 (一七四二) 年には、感得不動明王を京都・清閑寺より奉戴したのを機に、不動堂が建立されました。この不動堂は、朱塗りの堂宇であったことから、「赤不動」と呼ばれるようになり、近隣庶民の信仰を集めました。その後、幾多の変遷がありました。昭和四十八年には不動堂、平成十九年には回向堂がそれぞれ再建され、今日に至っています。



# 心静かに境内を巡る



**不動堂 (本堂)**  
鉄筋コンクリート造の朱塗りの堂宇であり、昭和四十八年に完成。本尊の感得不動明王や如意輪観音などをお祀りしております。祈願の道場として、護摩供などを執り行います。



**回向堂**  
木造の堂宇であり、平成十九年に再建されました。不動三尊を本尊としてお祀りしております。読誦の道場として、回忌法要などを執り行います。



**不動三尊**  
回向堂の本尊として、不動三尊をお祀りしております。中央に不動明王が座し、向かって右に蓮華を持った鈴杵羅童子、左に金剛杵を持った制吒羅童子を祀っております。

**八彦堂**  
八彦尊をお祀りしている木造のお堂で、不動堂の東側に位置します。八彦尊は吹止めに見験ある神様として、近隣の篤い信仰を受けてきました。祈願する人は、八彦尊にかかっているお樂安を借りて願をかけ、病気の完治など。願が成就したら新しいお樂安を奉納するのが置わしになっています(写真下)。左手には、圓座王をお祀りしている圓座堂があります。



**小泉寧夫先生算法碑**  
開流算法の宗師・小泉寧夫を顕彰した石碑で、鐘樓堂の北側にあります。小泉寧夫は当地・梅田村に生まれ、幕末における和算の大家でした。



**足立区指定保存樹林**  
大楠をはじめとする境内地の樹木は、足立区の保存樹林に指定されています。



**天満宮**  
当白の鎮守として、天神様をお祀りしております。かつては、寺の北側の通称「天和山」と呼ばれた小山に位置しておりました。現在は、不動堂の北東にあります。

## 東京都重要文化財

**如意輪観音**  
如意輪観音とは、観音菩薩の化身の一つです。何でも意のままになる能力を秘めた如意宝珠の力により、人々に財宝と福徳をもたらすと言われています。この尊像の胎内には、願主直亮/作者法眼院秀/応安二(1369)年大邑十七日」という造仏銘があります。年代・作者がはっきりしており、室町時代の彫刻として貴重なものです。東京都の重要文化財に指定されています。



当院のご本尊は、「感得不動明王」という呼び名の不動尊です。像長三尺二寸の立像で、朱塗りの堂宇である不動堂(本堂)に安置されています。不動明王は、真言宗のご本尊であり、大宇宙のいのちの根源とも言うべきほげ様(法身・大日如来)が、忿怒の姿で現れたほげ様です。恐ろしい形相で、火焰を背にし、右手に智剣、左手に翻索を持ち、磐石の上においでになります。この忿怒のお姿は、聞き分けのないかたくなな衆生であつても、必ず救わずにはおかないという堅いお誓いの表れです。

当院に伝わる「感得不動明王由来記」によると、弘法大師が四十二歳の時、厄除祈願のために造立し、高野山に安置されましたが、後に興教大師が帰依して、根来寺の護摩堂を経て、京都・歌の中山清閑寺の堂内に移されました。そして、寛永二(一七四二)年、当院に遷座されたと言われています。普段は秘仏としてお祀りしていますが、一月、五月、九月の各二十八日(お不動様の縁日)の際には、開扉して、ご宝前にて護摩供を執り行っています。

忿怒の姿の中に、衆生を哀れむ慈悲が感じられます